

第3回 臨時会

4月27日に臨時会を開催。専決処分事項の承認5件と、条例改正1件及び補正予算2件をそれぞれ審議しました。

専決処分の承認

▼安平町条例等の一部を改正する条例の制定について

令和5年3月31日に公布された地方税法等の一部改正により、町民税では森林環境税及び森林環境譲与税の改正に伴う条文の整備と軽自動車税のミニカー区分から3輪の特定小型原動機付自転車を除くことに対応するもの。

▼安平町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について
令和5年3月31日に公布された地方税法施行令の一部改正により、後期高齢者支援金課税額の賦課限度額

を20万円から22万円に引き上げるもの。

▼令和4年度安平町一般会計補正予算(第14号)について

- ・知事・道議会議員選挙経費 168万円減
- 民生費
 - ・介護保険事業特別会計繰出金 120万5千円減
 - ・認定こども園等運営経費 189万2千円減
- 衛生費
 - ・新型コロナウイルススワクチン接種対策事業 246万9千円減
 - ・空家対策事務経費 100万円減
- 農林水産業費
 - ・農業振興資金貸付事業経費 1000万円減
- 商工費
 - ・商工振興事業経費 170万円減
 - ・安平町商工会補助金 407万6千円減
- 土木費
 - ・除雪対策経費 293万9千円減
- ・河川維持管理経費 182万6千円減
- 教育費
 - ・育英基金積立金 100万円増
- 給与費
 - ・職員等人件費 944万3千円減
- 町税
 - ・現年課税分(町民税個人) 460万9千円増
 - ・現年課税分(町民税法人) 5962万7千円増
 - ・現年課税分(固定資産税) 675万5千円増
 - ・滞納繰越分(固定資産税) 2323万円増
- 国庫支出金
 - ・地方創生推進交付金 128万6千円減
 - ・デジタル田園都市国家構想推進交付金 696万6千円減
 - ・新型コロナウイルススワクチン接種体制確保事業費補助金 203万6千円増
 - ・参議院議員選挙費委託金 188万2千円減
- 環境性能割交付金
 - ・環境性能割交付金 211万1千円増
- 地方交付税
 - ・特別交付税 9523万5千円増
- 使用料及び手数料
 - ・リフト使用料 295万6千円減
- 歳入の主なもの (100万円以上)
 - 総務費
 - ・職員研修経費 129万2千円減
 - ・その他一般管理経費 2000万円減
 - ・地域おこし協力隊活用事業 118万7千円減
 - ・定住促進事業 541万8千円減
 - ・財政調整基金積立金 1億3068万7千円増
 - ・まちづくり基金積立金 542万円増
 - ・ひとつづくり基金積立金 143万7千円増
- 歳出の主なもの (100万円以上)
 - ゴルフ場利用税交付金 748万5千円増
 - 道支出金
 - ・知事・道議会議員選挙費委託金 261万3千円減

○財産収入

- ・町有地売却収入 349万6千円増

▼令和4年度安平町国民健康保険事業特別会計補正予算(第4号)について
 保険給付費の歳出減額とそれに伴う財源の収入減により歳入歳出それぞれ1682万7千円を減額し、予算の総額を9億3050万1千円とするもの。

○寄付金

- ・一般寄付金 4963万3千円減
- ・指定寄付金 2310万円増

○繰入金

- ・まちづくり基金繰入金 2571万1千円減
- ・農業振興基金繰入金 1000万円減
- ・ふれあい基金繰入金 4211万5千円減

○諸収入

- ・地域公共交通共通回数券販売収入 188万4千円増

○町債

- ・農林水産業債 200万円減
- ・教育施設債 600万円減
- ・その他公共施設・公用施設災害復旧事業債 130万円減

るもの。

補正予算

▼令和5年度一般会計補正予算(第1号)
 歳出では主に新型コロナウイルス感染症対策事業費の増額と、歳入ではそれに伴う財源等の収入増により歳入歳出それぞれ5520万3千円を追加し、予算の総額を83億8221万4千円とするもの。

歳出の主なもの

(100万円以上)

- 民生費
 - ・子育て世帯生活支援特別給付金事業 375万円増
 - ・新型コロナウイルスワクチン接種対策事業 5001万2千円増

歳入の主なもの

(100万円以上)

- 使用料及び手数料
 - ・畑地かんがい施設使用料 204万円増

○国庫支出金

- ・新型コロナウイルスワクチン接種対策費負担金 3626万1千円増
- ・子育て世帯生活支援特別給付金事業費補助金 360万円増
- ・新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費補助金 1375万1千円増

▼令和5年度水道事業会計補正予算(第1号)
 人事異動に伴う職員給料等の減額により、収益的支出を799万円減額し、総額を3億1436万8千円とするもの。

研 修 報 告

7月4日(火曜日) 北海道町村議会議員研修会

道内の町村議会議員を対象とした議員研修会が札幌市の札幌コンベンションセンターで開催され、安平町議会からは9名の議員が出席しました。



研修は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の理事長の五百旗頭 真氏と政治ジャーナリストの田崎史郎氏によるロシア情勢と、日本の政局についての講演でした。



よねかわ えみこ
米川恵美子議員

協働のまちづくりで 明るい未来と暮らしの安心を

人的資源も活かして持続可能な地域活動を

質問 安平町まちづくり基本条例の案文づくりに関わり協働体制の重要さを訴えてきたことをふまえ、多様な主体と行政による協働のまちづくりの推進について問う。

答弁 まちづくり基本条例の理念に基づき、自治の主体である町民や各種団体、NPO法人と行政の役割を活かし、補完、協力しながら地域課題を解決していくとの基本的考え方で推進していく。

質問 地区別計画協働づくり事業について、地域協働体の設立、及び地域プランの策定準備に対し交付金を交付するとは具体的に協働体の構成員の適格性や人数はどうか。プラン策定後の実施者と期待するものは何か。遠浅と安平小学校閉校による地域衰退を心配する声があるため、しっかりと協働体制を作っていたきたいとの思いで問う。

答弁 両地区の旧小学校の範囲として協働コミュニティ圏において複数の自治会やNPO法人、地元事業

者等で構成する地域運営組織を設立し実行プランを作成した。取り組む事業に要する経費に対し一地区に年間500万円交付する。安平地区まちづくり協議会が運営管理を行っている。担い手育成確保や地域コミュニティの維持再生、地域活性化等持続可能な地域活動発展に寄与することを期待している。

質問 具体的な動きを伺う。

答弁 安平地区ではワークショップ6回76人の参加で実行プランを作成。閉校活用については先進地視察を検討している。祭り開催も検討している。

質問 協働のまちづくりにおいて行政側と町民主体の活動団体との関係性について考え方を問う。

答弁 広域的活動やボランティア活動が安定して行われるように交付金の支援策を新たに設けるなど必要な支援を積極的に行っていく考え。

質問 行政側と社会福祉協議会の関係性についてと、地域支援体制整備事業に対

して800万円交付している根拠を問う。

答弁 共催、協賛、後援と立場によって支援や協力を相互に行っている。生活支援体制整備事業を社協に委託し生活支援コーディネーターに同額を支援している。

質問 地域福祉の推進を図るための活動に交付金を交付している団体数と構成員数と総額を問う。

答弁 16団体のべ85人、交付金総額52万円。

質問 町の支え合い交付金は一団体に3万円で20年以上前から変わらない。支援対象者増に最近の物価高で活動者の苦勞が多い。交付額の上限の変更はどうか。

答弁 まちづくり基本条例20条の解説の中で目指していた動きが出てきたと思うため、様々なボランティア活動がしやすい環境を作っていく。

質問 町主催や社協主催の活動者や参加者にはあびらポイント付与がある。町民主催の活動には付与されない理由を伺う。

答弁 あびらポイントは商

店街の振興発展に寄与しているが現行では難しい。

質問 ボランティア保険があり活動者と対象者を守るために必要と考えるが、町民主体の活動団体にも保険加入をしようか。

答弁 保険を掛けると他のボランティア活動でも使えるため検討したい。

質問 人も社会資源と考え世代交代して長く町民福祉のために活動する体制づくりは循環型社会と考えるが、協働のまちづくりに重要なとの思いから認識を伺う。

答弁 まちづくり基本条例第8条2項で担い手の発掘に努めますとあるため、様々な観点から循環型社会を目指していきたい。

一般質問を終えて

近年暮らし方を変化させた人が多く淋しかった街中に、新店舗ができ、地域サロン復活、スポーツ大会、祭り盛大と賑わいが聞こえてくる。協働で希望の持てるみんなの町にしよう。



ないとうけいこ
内藤圭子議員

オーガニック宣言をした安平町は 今後どのような街を目指すのが 産業廃棄物処分場計画について伺う

学校給食について

質問 安平町は4月にオーガニックビレッジ宣言をしました。オーガニックビレッジ宣言でどのような街を目指すのか。この宣言を勉強していくうちにまさに町づくりになると感じた。

質問 オーガニック宣言をしたのは道内では安平町だけと聞いたが、なぜ宣言をしたか。

答弁 国が策定した緑の食料システム戦略には2050年までの目標として3つの目標がありその目標達成のために各種支援制度が設けられた。安平町農業再生協議会が事業に応募し、令和5年3月に安平町有機農業実施計画が策定された。

この取り組みを安平町の町づくりを生かしていくことで宣言を行ったもので、この宣言を行う事は有機農業産地づくり推進事業を実施する条件となっている。

質問 今年の計画は。

答弁 加工食品に関する検討会、有機米栽培にかかると新型除草機の実証実験、

農福連携による農作業委託の試験導入、有機大豆を使用した味噌の試作、先進地視察、生産者向け講演会、消費者向け講演会を予定している。

質問 オーガニックビレッジ宣言という言葉が先行してしまうと誤解する人もいるのでは。オーガニックビレッジ宣言は町づくりに結び付くと思う。町民に説明する必要を感じる。町が考えるオーガニックとは。

答弁 オーガニックの定義は変えられない。自然の恵みを生かした農林水産業の加工方法と考える。安平町で営まれている多種多様な農業にオーガニックという新しい魅力が加わったものとする。

質問 食育というのは一つの役場の担当課でどうなるものではない。健康福祉課、教育委員会、政策推進課、産業振興課、JA、住民や農民も加わって安平町食育計画と一緒に作るのはどうか。その中で給食にできるだけ地場産品を納入するシステム作りを考えて

みてはどうか。また、安平町が考えるオーガニック給食とは。

答弁 安平町もオーガニック給食協議会に参加意向を示した。現時点で教育委員会の考えは特にならない。食育計画については健康あびら21の中で食育計画が策定されている。現段階において健康あびら21の計画から食育部分だけを独立させた計画として策定する予定はない。

質問 安平町は仕入れのシステム作りが重要ではないか。

答弁 どうあるべきか多くの方の意見を頂いて議論していく必要がある。

産業廃棄物処分場計画について

質問 北進、守田地区にある産業廃棄物処分場計画の現状と町の対応は。

答弁 現状進展はない。これまで同様、助言を頂きながら対応する。

質問 庁内に検討会や担当

部署が必要ではないか。

答弁 庁内環境問題協議会を令和2年9月に設立し、案件がある都度開催し現在まで10回開催している。

質問 決定する場か。

答弁 情報を共有する場。

質問 昨年開催した環境フォーラムは今年に計画があるか。

答弁 本年度も開催する予定。

一般質問を終えて

オーガニックビレッジ宣言をオーガニック宣言と間違えているところが数か所ありました。申し訳ありません。町を挙げたの食育計画は子どもからお年寄りまで関わることでできる素晴らしい事だと思えます。課の壁を越えてというところはなかなか難しいと思いますが、オーガニックビレッジ宣言をした安平町ならこれも町づくり、外に向けての発信の材料になると確信します。



うめもり ひとし
梅森敬仁 議員

安平町の今後の展望について

◇次世代半導体製造会社ラピダスの千歳市進出を受けて
◇小学校が廃校になった安平・遠浅地区の活性化対応

大きな政策の転換が必要ではないのが
メリット・
デメリットは

質問 ラピダスは5月に近隣自治体・関連企業を集めて説明会を実施した。

概要がある程度判明したことから多くの町民が注目している。総合計画の見直しなどを含めてメリット・デメリットをどのように考えているのか。

答弁 苫小牧市、白老町、安平町、厚真町、むかわ町の1市4町で東胆振の期成会を作って定住自立圏構想を議論しながらラピダスの受け皿となっていきたい。メリットについては、同社の推定によると5兆円規模の投資で10年間の初期投資と考えると年間5000億円の多くが道内や圏域の自治体に落ちることを考えますと相当な経済効果と考えています。更に、工事従事者、会社従業員などの生活環境への対応により人口増や、商工業者の活性化につながっていくものと期待

しています。

デメリットについては、自然環境問題、特に大量な排水処理の関係が懸念されますが現在のところ問題はないと考えています。今後これらの関係については周辺自治体などの情報の共有など適切に対応していきたいと考えています。

更に、ラピダス次世代半導体事業に関しては、研究開発から量産まで多くの人が関わることとなります。

アメリカなど多様な国から多様な人材が圏域に住み続けるために多言語への対応、宗教的配慮、生活者へのサポート体制の構築などが課題だと捉えています。

安平町としては、こうした視点と取り組みをいち早く施策展開することが求められていると認識しています。

プロジェクトチームの
立ち上げが必要では

質問 関係自治体では、いち早く対応のためプロジェクトチームを立ち上げていると聞いています。安平町

においても地震被害の時に活躍してくれたボランティアの方たちのような民間の力を取り入れたプロジェクトチームの立ち上げが急務だと考えるが。

答弁 安平町では、現段階ではプロジェクト体制の議論はありませんが、他の案件では庁舎内の横断的な会議体制を作つてやってきた経験があります。

現在安平町では、対面方式だけでなくラインワークスも導入しておりその中にあるトークルームを仮称チームラピダスとして既に作っています。

今後は、千歳苫小牧地方拠点都市地域整備推進協議会などと連絡体制を整えていきます。

安平・遠浅地区の
活性化について

質問 小学校が閉校になった安平・遠浅地区の住民は

跡地利用など、今後どのように進んでいくのか不安に感じています。対面方式での説明会などをこまめにしたい。

答弁 地区別計画実行協働づくり事業を遂行中ですが、きちんと説明したり情報を提供したりすることは重要だと考えますので対応していきたいと考えています。

一般質問を終えて

安平町にとって大転換期が到来した。ラピダスの千歳市進出を受けて、しっかりと対応してほしい。特にスピード感が要求される案件だと感じた。一方、小学校が閉校になった安平・遠浅地区の住民には顔の見える丁寧な情報提供と要望の聴取が必要だと感じた。

